

中国における子供漢俳

朱 實

はじめに

- 1 漢俳にチャレンジする中国の子供たち
- 2 緑の地球は五・七・五
 - (1) 中国の子供たちの漢俳作品
 - (2) 今後の課題

はじめに

本論集第 27 卷第 2 号で筆者は、俳句と漢俳の交流を中心に、中国における俳句の受容および俳句の漢訳、漢俳の和訳、さらには今後の課題などについて、実作例を引用しながら論述した。

第 27 卷第 4 号では、「俳句と漢詩とのかかわり——芭蕉・蕪村・一茶俳句新考——」と題して漢籍と関連のある芭蕉・蕪村・一茶の俳句について探求した。

本稿はその続篇として、中国における子供漢俳について論究したい。

1 漢俳にチャレンジする中国の子供たち

JAL (日本航空) は 1964 年に全米 HAIKU コンテストを催して以来、各国に俳句の輪をひろげ、子供たちの俳句を集めて『地球歳時記』を出版してきた。

中国の子供漢俳がハイクコンテストに参加するようになったのは、1990年からである。

1990年、大阪で開催された「国際花と緑の博覧会」にちなみ、「花と緑」をテーマとした小学生対象のハイクコンテストが世界規模で実施された。

「世界こどもハイクコンテスト'90」と名づけられたこのコンテストは、主催・日航財団、後援・日本ユニセフ協会、協力・日本航空の形で進められた。26の国や地域から約6万句の応募があったと言われている。

海外では、日航財団の企画に基づき、日本航空各支店がコンテスト実施の主体となり、教育機関への協力依頼、ハイク募集、審査員依頼、表彰などを行なった。

前掲の論文で述べたように、日本の俳人たちとの交流の中で、中国に「漢俳」（日本俳句の五七五形式の漢字を使い、韻を踏み、季語を取り入れた漢詩式俳句）という新詩型が誕生したのは1980年。同年5月末、中日友好協会の招きに応じて社団法人俳人協会第1回訪中団（会員以外の俳句関係者も含め）一行21名が、大野林火を団長として訪中した。その座談会・歓迎宴の席上で、趙樸初・林林・畢朔望の諸氏が漢俳を披露した。

翌1981年4月、林林・袁鷹の両氏が、俳人協会を友好訪問のため来日、能登・箱根・志摩・京都で吟行。帰国後、中国作家出版社刊行の『詩刊』6月号に林林は「春遊」ほか5首を、袁鷹は「京都晩春」ほか5首を発表。趙樸初は「贈日本俳人協会諸友」ほか5首の漢俳を寄稿した。（漢俳は各首ごとに表題をつける。）

同年8月8日の『人民日報』には趙樸初・林林・陳大遠・鐘敬文・公木・袁鷹の諸氏が「漢俳試作」と題して漢俳を発表。これを契機に、中国全国の新聞・雑誌に漢俳が掲載されるようになったのである。

1990年5月、浙江省の杭州大学で中国和歌俳句研究会（会長・李芒，副会長・瞿麦，同・趙樂甡，同・羅興典）が誕生した。日本からは近藤芳美・中野菊夫・金子兜太氏ら歌人・俳人が多数参加した。

同年夏、中国の子供漢俳が上述の JAL 主催ハイクコンテストに初参加。以後、殆んど毎回参加するようになった。

同年 10 月、「第 5 回国民文化祭愛媛'90」の一環として、松山市で国際 HAIKU 大会があり、筆者は漢俳の審査員・パネリストとして参加。漢俳部門の応募句は 181 句、愛媛県知事賞や第 5 回国民文化祭愛媛県実行委員会賞などを受賞している。

1992 年 4 月には、上海俳句漢俳研究交流協会（会長・瞿麦、副会長兼秘書長・冰夫、副秘書長・冒蔭寰）が誕生し、(社)日本伝統俳句協会友好訪中団（団長・伊藤柏翠）一行 40 人と、上海で俳句・漢俳交流史上初めての試みとして、「第 1 回日中友好俳句漢俳交流句会」が実現した。俳句を漢訳し、漢俳を和訳したのを、日本における句会の形式で清記、互選、披講したのである。

1994 年 9 月、「第 12 回アジア競技大会広島'94」の一環として、アジア記念俳句大会実行委員会主催、(社)日本伝統俳句協会・広島ホトトギス会共催による「地球はふるさと HAIKU」コンテスト・アジア子供俳句の募集があり、上海から応募した子供漢俳が金賞 1、銀賞 1、銅賞 2 を受賞している（詳細は後述）。

1994 年 10 月、芭蕉没後 3 百年を記念して国際俳句交流協会主催の「国際俳句コンテスト」があり、中国本土・台湾・香港・アメリカからの漢俳応募作品は 675 句に達し、その中から 30 句が入選した。

中国に「漢俳」という新しい詩型が生まれ、俳句の翻訳も盛んとなり、俳句が中国で脚光を浴びるようになってから、「ホトトギス」主宰・稲畑汀子、俳文学会訪中団団長・井本農一、「あした」主宰・宇咲冬男、「冬野」主宰・小原菁々子、「海程」主宰・金子兜太、(社)俳人協会歴代会長＝大野林火・安住敦・沢木欣一・松崎鉄之介、「狩」主宰・鷹羽狩行、「風の道」主宰・松本澄江、「燕巢」主宰・羽田岳水諸氏の率いる訪中団の訪中が続き、年を追って俳句と漢俳の交流が盛んになっている。

こうした流れから分かるように、中国の子供たちの漢俳に対するチャレン

ジは、俳句と漢俳との交流が深まり発展した結果であり、生まれるべくして生まれたものであると言えよう。

2 緑の地球は五・七・五

昨年の「冷夏」から一変して、今年は「酷暑」で、熱帯夜が続き、クーラーなしでは眠れぬ日が多かった。このような全世界的な異常気象は、地球環境を破壊しすぎた人類に対する大自然の懲罰なのかも知れない。

今や炭酸ガスによる温室効果のために起こる地球の温暖化、車の排気ガスによる硫黄や窒素の酸化物による空気の汚せん、森林の濫伐による環境破壊等の問題は人類にとって深刻である。

俳句は自然との対話である。世界の子供たちが汚されていない心で自然を愛し、俳句を通して異なった国・民族・習慣・風土・文化などの共通性・相違性を理解し合うことは、かけがえのない緑の地球を守り、平和へつながる道の一つであるように思われる。

(1) 中国の子供たちの漢俳作品

上述のように、中国の子供漢俳の「世界ハイクコンテスト」への初参加は1990年であった。

上海では、孫文夫人・宋慶齡女史の創設した、子供たちの課外活動センターである上海少年宮の協力を得て募集が行なわれた。

先ず小学校の語文(国語)の教師を対象に、筆者が俳句と漢俳に関するレクチュアを行ない、それから子供たちを指導してもらい、漢俳を試作させた。季題に関しては、稲畑汀子著『自然と語りあうやさしい俳句』の拙訳『與大自然対話 俳句入門』(永田書房、1988年11月出版)が役に立った。そうして作られた子供漢俳を上海少年宮に持ち寄ってもらって実地指導を行なった。結果的には3千句を超える応募があり、審査員によって5百句選ばれ、

さらにベスト5句が厳選され、イラストをつけて、日航上海支店を通じて日航財団に送られたのである。

NHK大阪本社は「世界こどもハイクコンテスト'90」のために特別番組を組み、オーストラリア、カナダ、マレーシアでの取材を終えて上海の少年宮でも取材し、「緑の地球は五・七・五」というタイトルで、全国番組で放映した。

「花博」会場では、世界26の国や地域から集まった子供たちのハイクと絵が展示された。

中国の子供たちの漢俳の中から特選作品とその日本語訳を紹介しよう（訳一瞿麦。○は押韻）。

小 小 蒲 公 英	小さな小さなタンポポに
对 他 軽 軽 吹 口 氣	フーッと息を吹きかけたら
飛 出 小 傘 兵	小さな落下傘兵が飛び出した
韓 濤 (10歳)	

星 星 亮 晶 晶	きらきら光るお星さま
笑 着 对 我 眨 眼 睛	笑ってウインクする
准 能 知 我 心	きっと僕の心知ってるよ
朱 亮 羽 (9歳)	

炉 火 紅 彤 彤	炉の火は赤々と
炉 中 白 薯 香 味 濃	お芋の焼けるいい香り
門 前 大 雪 涌	家の外は雪こんこ
孫 揚 (10歳)	

春 雨 軽 軽 飄	春雨に
-----------	-----

箭竹娃娃破土瞧	笹の芽が顔出した
熊猫點頭笑	パンダも嬉しそう
高充宇 (12歳)	

「世界こどもハイクコンテスト'91」から——

雲見片連片	雲の峰
小狗小猫花样变	犬に変わったり猫に変わったり
張張滑稽臉	どれも滑稽 <small>こっけい</small> な顔してる
周佳奕 (10歳)	

夏の雲の変化を子供の目で捉えたユニークな作品で、俳諧味に富んでいる。

昨夜雨濛濛	昨夜からそぼ降る雨
一觉醒来春意濃	目が覚めたらすっかり春の気配
梧桐換新容	プラタナスは新しい装い
洪純安 (10歳)	

梧桐は上海の街路樹であるプラタナスのこと。落葉喬木で、葉は大形、もみじ葉のように五裂し、深い切れ込みがある。夏は緑のトンネルのようになる。秋、まるい実が鈴をかけたように垂れさがるので「鈴懸すずかけ」の別名がある。四月中旬、淡黄緑色の花を咲かせる。

一晩中降り続いた春雨、翌朝、目を覚ました時のプラタナス並木の変化を子供の目で捉えた感性豊かな句である。

「世界こどもハイクコンテスト'94」から——

今回「海または空」を主題にした句を募ったら、22の国や地域から約7万句が集まり、日本国内でも、日本学生俳句協会との共催で全国の小中学生から1万2千を超える応募句があったとのことである。

上海と北京の子供漢俳を1句ずつ紹介することにする。

太 陽 愛 清 潔	太陽はきれい好き
鑽 進 大 海 洗 個 澡	海にもぐって湯あみ
出 来 紅 艷 艷	出てきた時は真っ赤な顔
上海 鮑 琪 (12歳)	

我 向 海 灘 跑	海辺を走ったら
海 水 点 頭 招 手 笑	波が笑って手を出し
伸 手 握 我 脚	僕の足を握った
北京 王 軒 (9歳)	

想像力が実にゆたかである。

以前のように厳選の末、日本に送られてきた漢俳作品には、それぞれ絵が添えてあった。前回の「飛ぶ」を主題にした作品をまじえ、世界各国の子供たちのハイクと絵、約百点が、9月20日から30日まで、新しくオープンした関西新空港に展示された。世界の子供たちの目で捉えた、生き生きとした「空」「海」「飛ぶ」が、世界初の本格的な海上空港を飾ったのである。

1994年10月、アジアのスポーツの祭典——第12回アジア競技大会が、国際平和都市広島で開催された。大会テーマの「アジアの調和」を目指して、史上最多といわれる42の国や地域から、約7万3千人のアジアの仲間たちが、世界最初の被爆地に集まったのである。

その関連事業として、アジア記念俳句大会実行委員会主催、(社)日本伝統俳句協会・広島ホトトギス会共催による記念俳句大会が9月上旬に開催された。事前に、「月」を主題にした「地球はふるさと HAIKU」コンテスト・アジア子供俳句の募集があったが、連絡が遅れたため、締切りぎりぎりに上海

から応募作品 31 句が届き、急ぎょ翻訳してアジア記念俳句大会事務局にお送りした。

審査の結果、外国人部門で中国の子供漢俳は金賞 1 名、銀賞 1 名、銅賞 2 名、入選 9 名の好成績を取めた。銅賞以上の作品を紹介しよう。

〈銅賞〉①

水中落玉盤
風吹水面碎千瓣
風過它又圓

水中に落ちた玉の盆
風が吹けば千々に砕け
風が止んだら又丸くなる

林泌軼 (9 歳)

〈銅賞〉②

夜空似湖塘
星似菱兒漂湖上
月船採菱忙

夜空は湖みづうみのよう
星は湖にただよう菱ひしの実
月の船に乗って菱の実をとろう

陳穎瑤 (10 歳)

〈銀賞〉

銀鑼掛夜空
太陽神力来敲動
濺出星滿天

夜空にかかる銀のドラ
アポロの神が打ちならせば
空いっぱいにとび散る星

劉莉虹 (10 歳)

〈金賞〉

月兒弯弯照
伴我夜歸咪咪笑
我跑你也跑

三日月さん
ニコニコ僕と夜道を帰る
僕が走れば月もまた

潘 辰（8歳）

金賞を受賞した潘辰君は、上海第一師範付属小学校の3年生で、上海少年宮のアコーディオン・サークルに参加している。

大会賞・金賞受賞者は、1994年9月4日の記念俳句大会で表彰されたが、潘辰君は参加できなかったので、次のようなメッセージが読み上げられた。

僕の漢俳が金賞を受賞して、とても嬉しかった。

僕は毎週木曜と日曜に、上海市少年宮のアコーディオン・サークルで練習している。練習が終ると、お迎えに来たお母さんといっしょに帰る。ある日、僕はひとつの秘密を発見した。僕が歩くとお月さんがついて来ることだ。僕が喜んでとびはねると、お月さんもとびはねた。アコーディオンが上手になったのをほめてくれ、「家まで送ってあげようか」と言っているみたい。本当に家の門まで来ると、お月さんも僕について来ていた。「お月さん、ありがとう」。そこで、僕はこの漢俳を書いたわけ。

僕は本当は、空に昇ってお月さんにあいさつし、おしゃべりがしたいんだ。

(2) 今後の課題

中国で漢俳が子供にまで浸透したのは、次のようないくつかの要因があったと考える。

- ① 日本国内における俳句ブームおよびそれに伴う俳句の国際化
- ② 中国における漢俳という新詩型の誕生および俳句と漢俳の交流
- ③ 「世界こどもハイコンテスト」への参加およびその波及効果

中国の子供は小さい時から『唐詩選』を暗誦したり、五言・七言絶句や押韻になじみがあり、季題・季節感など欧米の子供に比べて割に理解しやすい素地があったことも挙げられる。

しかし、俳句の形式に倣って漢字17文字を5・7・5に配当する「漢俳」はあくまでも中日文化交流の中で生まれた新詩型であって、俳句そのものではない。

俳句の国際化が云々されているが、俳句と漢俳の交流を含め、俳句の国際化と言っても、余韻・リズム感・季語・翻訳など今後の課題は多々ある。

子供俳句について言えば、自然という共通の母に育まれている世界中の子供たちが、それぞれの国の言葉で俳句・漢俳や HAIKU を作り、翻訳を通じて互いに鑑賞し合い、詩的な喜びを分かち合うことによって、諸国民間・子供同士の相互理解を深め合っていくべきではないだろうか。

漢俳の形態に関しては、中国大陸では5・7・5の3行詩という形がほぼ定着しているが、台湾では3・4・3の1行詩が試作されている。後者は俳句漢訳の形態の一つとして中国大陸ですでに用いられている。今後の百家争鳴に待つべきであろうか。

〔参考資料〕

『地球歳時記'90』日航財団、1991年3月25日発行

「天声人語」『朝日新聞』1994年9月18日付

拙論文「中国における俳句の受容」『岐阜経済大学論集』第27巻第2号

拙論文「俳句と漢俳とのかかわり」『岐阜経済大学論集』第27巻第4号